

◆次第：①開会、②議事、③その他

◆議事：①序論について ②基本計画【総論】について  
③基本構想及び基本計画【各論】、地域ごとのまちづくり計画の整合等について

◆審議概要：

#### ①序論について

##### 【計画策定の根拠】

- さらっと書かれている感じがする。例えば、まちづくり基本条例において、総合計画は「まちづくりの基本理念」に則り策定することになっていることや、協働のまちづくり推進条例ができたことで、住民側が参加するという立場がはっきりし、地域ごとのまちづくり計画の位置付けもなされたことを書いてはどうか。

##### 【計画策定の背景と目的】

- 宝塚市におけるSDGsの取組について明記が必要ではないか。  
→基本計画【総論】で、市としてどう取り組んでいくかについて記載している。
- 「これまでの行政サービスをすべて維持することが困難となる恐れがあります」とあるが、対応の手立てがないのであれば、「…困難となります」とした方が良いのではないか。  
→困難とならないように取組を進めていかなければならないという認識を強く持っており、このような表現にしている。

#### ②基本計画【総論】について

##### 【10年後、20年後の本市が抱える問題】

- 北部地域は90%以上が兼業農家である。産業として非常に大事であり、存続は当然と思うが、「集落の存続が危ぶまれます」とまでは思わないので、書きぶりを検討してほしい。

##### 【(1) 基本的な考え方】

- 基本的な考え方について、5つのポイントを説明いただいたが、それが分かるように文頭に数字を入れ、字を太くするなどした方が見て分かりやすくなるのではないか。
- 「総合計画に示すまちづくりの方向性は、…SDGsの理念にも通ずるもの」とあるが、SDGsの理念に通ずるというより、そのものではないか。書きぶりに違和感がある。

##### 【(2) 重点方針】

- 図で5つの重点方針を示しているが、重点方針[1]と[2]が[3]～[5]の下に表記されており違和感がある。[1]と[2]は、横断的方針などの表現の方が分かりやすいのではないか。  
→重点方針[1]と[2]は全ての施策に関連し、[3]～[5]の土台となるものであり、このよう

に図示している。

- 重点方針 [1]、方向性「◆」2つ目、「まちづくりに関心を持つ市民を掘り起こします」とあるが、行政が見えていないところで自由に活動している市民はいっぱいいるので、まちづくりに関心を持つ市民とつながります、連携しますような表現の方が良いのではないか。
- 重点方針 [3]、方向性「◆」1つ目、「高齢者の生活の質 (QOL)」とあるが、高齢者に限定せず、市民全体の QOL の向上が必要ではないか。
- 重点方針 [4] に「子どもの権利」とあるが、子どもの権利とはどういうものなのか。「子どもの権利条約」の注釈で示されている意味合いとイコールと考えて良いのか。
- 重点方針 [4]、必要性「◇」3つ目、「これからの社会を生きていく力を身につけるため、ICT を活用した教育環境を充実させることが必要です」とあるが、生きていく力を身に付けるためには ICT を活用した教育環境を充実させれば良いと誤解されないよう、学習指導要領の 1 つの柱でもあるアクティブラーニングや ICT を活用した教育環境を充実させるといった表現にした方が良いのではないか。

### 【(3) 進捗管理】

- 地域の実践との関連を考えると、各施策をばらばらに評価するのではなく、部局間連携をしながら評価をしていくことを記載してはどうか。
- 分野別計画について、「地域ごとの状況を踏まえた計画づくりに努めます」とある。分野別計画についても地域と話し合って策定していくことを期待している。  
→「地域ごとのまちづくり計画も踏まえて」など、もう少し地域ごとのまちづくり計画も表に出した方が、地域も安心感が出てくるのではないか。  
→どこまで地域の状況を見ていけるのかは、今後調整が必要な部分もあり、踏み込んで書くのは難しいが、地域ごとのまちづくり計画もできる限り踏まえ、計画づくりに取り組んでいきたいと考えている。
- 地域ごとのまちづくり計画の進捗管理の項目と内容が重複しても良いので、ここにも「地域と行政の総合で進捗管理」などを追加してはどうか。  
→基本構想「(2) 進捗管理」で記載のあるように、大きな考え方は基本構想で示している。  
→基本計画にも記載した方が地域側の安心感が高まるのではないか。

## ③基本構想及び基本計画【各論】、地域ごとのまちづくり計画の整合性等について

### 【基本構想】

- 「6つのめざすまちの姿」の図「(6) 観光・産業・文化」や分野ごとの現状認識の文字間が狭く、読みにくいので、調整してほしい。

### 【基本計画】

#### <安全・都市基盤>

- 「土地利用」、施策(2)の成果指標、「市街化調整区域の面積」のめざす方向性が「→」となっているが、施策に「弾力的な運用」について明記したほうが良いのではないか。
- 「上下水道」の施策分野において、合併処理浄化槽のことをなんらかの形で明記してほしい。

#### <健康・福祉>

- 「健康・医療」のグラフについて、情報が古いのでは。  
→健康寿命のグラフについて、市独自の計算による算出ができないかも含めて検討してほしい。

#### <環境>

- 「環境保全」、施策（1）「○」6つ目の「COOL CHOICE」について注釈が必要ではないか。

#### <観光・産業・文化>

- 「農業」、施策（2）「農業の新たな価値創出の推進」に、例えば、環境保護といった農業の持つ多面的機能について記載してはどうか。  
→施策の方向性を増やす、形容詞を入れて補うなど考えていただきたい。
- 「雇用・労働環境」にも、「障害（がい）者福祉」にあるような就労問題や施策を盛り込むべきではないか。
- 「雇用・労働環境」のグラフについて、情報が古いのでは。

#### 【地域ごとのまちづくり計画】

- 地域ごとのまちづくり計画本編の「具体的な取り組み」がすぐに見れるように、ポータルサイトの URL などを入れてはどうか。

#### 【SDGsについて】

- 宝塚市も SDGs に取り組むということをきちんと書いてほしい。  
→尼崎市では尼崎版 SDGs 2020ver.というリーフレットを作成し、SDGs をどう展開していくかを総合計画から抜き出して分かりやすく掲載しているので参考にしてもらいたい。エイジフレンドリーシティについても同様に、総合計画と連動していることがアピールできるような冊子を別途作るのも一つの手である。  
→各論に記載せず、別途 PR する工夫を検討していただくこととする。

#### 【エイジフレンドリーシティについて】

- エイジフレンドリーシティは宝塚市の頑張った施策だと思うが、縦割りの壁を破れなかった気がする。  
→今回、重点方針の中で、高齢者に寄与する取組をエイジフレンドリーシティの取組として整理し、「お互いさまがあふれるまちづくり」については、基本計画【総論】の「基本的な考え方」で位置付け整理している。  
→エイジフレンドリーシティについては原案通り、基本計画【総論】の重点方針[3]で記載することとする。

#### 【市民憲章等について】

- 市民憲章で「人に迷惑をかけないようにしましょう」とあるが、迷惑を掛けながらも、お互いに助け合える思いやりや支え合いのあるまちになっていくべきであり、今の時代の考え方には向いていないと思う。

- 内容が時代に合っているかという問題もあるため、総合計画には盛り込まない方が良いと思う。
- 歴史的な文章のため、制定時の市民憲章はこういうものだったという理解に留めて、総合計画にわざわざ入れる必要はないと思う。
- 総合計画に盛り込まないこととする。

## その他

- 注釈について、簡略に説明されている用語があるので肉付けしてほしい。
- 「取り組み」、「取組」の表現が混在しているのではないか。
  - 市の公文書のルール上は「取組」と表現するが、地域ごとのまちづくり計画は本編で「取り組み」と表現しており、本編に合わせた表現となるよう意図的に使い分けている。
- 縦割りの弊害といった課題に対する文言を入れてはどうか。
  - 「行財政経営」、施策（2）「○」3つ目に、「機能的で連携の取れた組織体制を整備します」と記載しており、ご指摘の意味合いを込めている。
- 「自然災害」と「災害」という単語が混在しているが、整合性がとれていないのではないか。
- 「子どもの貧困」という単語があるが、親が貧困だから子どもが貧困になるのではないか。
  - 「子どもの貧困対策の推進に関する法律」の表現に合わせている。
  - 宝塚市独自で「障碍（がい）」と表記したように、違った考え方を出しても良いのではないか。
- 若い人のアイデアを取り入れた、新しい感覚の行政のような文言をどこかに盛り込めないか。